

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090300268		
法人名	(株)プライムアシスト		
事業所名	ケアホームいまじん		
所在地	桐生市境野町2丁目1459		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市富士見町小暮 704-2
訪問調査日	平成27年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切にし、時間に追われることなくゆったりとした時間を共に過ごし、寄り添うケアを心掛けている。看取りを視野に入れて最後までその人らしく生活できる様介護させて頂いている。入所期間10年を超える方が数名おられ、励みにもなっている。特に楽しみと健康維持の両立が可能な「食べることを大切にしており、食材にもこだわり、職員間でも調理の仕方や食べ方の工夫等日々話し合いながらその方に合った状態で食事を楽しむ事ができる様努めている。また、利用者のニーズに合わせて少人数での日帰り・一泊旅行を実施し、個性を高めたケアを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎日の生活の中で欠かすことの出来ない「食」に対しての配慮が行き届き、充実した食事が提供されている。利用者の嗜好や好みを取り入れながらの食材の選択、調理法の工夫等による食事は利用者にとって最大の楽しみとなっている。職員は自己の業務に対しプロ意識を持って利用者向き合っている。利用者との会話の内容や声のトーン、利用者の状況を見ながらの個別対応等、利用者が安心して生活出来る環境作りがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月会議を行い理念に基づいた運営状況を確認し実践できるように心掛けている。	事業所独自の理念を意識しながら、利用者に接すると共に日々の実践で確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新年会や地域の清掃、夏祭り等に利用者と共に参加したり、地域の会議等にも参加し、交流を深めている。	地域の会議・新年会・夏祭り等の行事や清掃に参加し交流の機会を作っている。町会長との連携が良く、情報・提案・意見を聞くことが出来る。犬との散歩で近隣の方と言葉を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のニーズを把握してどう支援をしていけばいいか検討中の為今現在は活かしてはいない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し、状況説明をしたり、今後の運営方法について意見を頂いたりしている。	会議は2ヶ月に1回開催、事業所の状況・行事・利用者の様子等を説明し、参加者と意見交換を行ってサービスの向上に反映させている。	家族の参加が少ないので家族が参加できる日程調整等お願いしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあった時に相談をしたり等連絡を取り合う事はあるが常日頃から連絡をする事はできていない。	介護保険申請の代行で市の担当者を訪問した時に情報交換や疑問点を聞いたり、会議の場や電話で相談や意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議等で話し合う場を設け、確認する機会を作っている。身体拘束や日常の施錠はせず取り組んでいる。夜間は危険防止のため玄関の鍵は閉めている。	身体拘束をしないケアについては会議などで確認し実践に繋いでいる。日中は玄関に施錠はせず、夜間のみかけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議で話し合う機会を作り、常に意識を持って業務にあたるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持てていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に理念について説明し、理解して頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族が来訪する機会を設け、その際に意見を聴いたりしている。	利用者の要望等は日頃の言動から把握に努め、家族来訪時に意見や希望を聞き、職員は申し送りで情報を共有している。外出の希望や食べたい物の要望がありサービスに反映している。一泊旅行に出かけ思い出を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会議の開催やカンファレンスに参加、また職員のための食事会を開催する事により状況の把握に努めている。	月に1回開催の職員会議で職員の意見や提案を聞いている。食事会や定期的な面談を行い、忌憚の無い意見や要望を聞く機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面談を行ったり、給与の見直しを行う事、また研修費の会社負担を積極的に進める事により、環境・条件の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自らシフトに入り、共に働きながら現場の情報収集にあたり、会議やカンファレンスに参加して意見を聴く事により把握に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連協の大会への参加・県主催の研修への派遣等を行いながら他施設の職員との関わりを持てる様努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を活用し要望等を聴きながら安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式を活用し、家族の声を聴きながらさどの様に取り組んでいけるか話し合うを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の話を聴きながら提供できるサービスの説明をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や食事の後片付け等を一緒にしながら日常生活を送れるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	最低でも月に一度利用料の支払いの為家族に来訪して頂き、利用者様の状態の話をしたり、一緒に過ごせる時間を提供できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の状態により難くなるケースも多いが、自宅に帰れる様協力をしている。	定期的に図書館に行く人や買物に出かける人等があり、在宅時の習慣の継続支援に努めている。家族と一緒に買物や外出する方もいる。家族と絆が途切れないよう、些細な変化が見られた場合でも家族に報告している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入るようにしてコミュニケーションが図れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に応じて連絡を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を聴ける方には聞き、困難な方にはセンター方式をもとにしたり、家族から情報を得て検討している。	利用者の思いや希望は日頃の生活の中での言動から把握している。意思疎通の困難な場合はセンター方式により家族等から情報を得て支援に繋いでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用して本人・家族から話を聴く事で把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録やカンファレンスでの情報交換・話し合いにより把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回の運営会議やカンファレンスの他、その都度話し合いプランに反映させている。	本人・家族等の希望を基に、話し合いを持ち計画を作成している。月に1度モニタリングを行い、6ヶ月に1度計画の見直しをしている。状態に変化が見られた時には随時の見直しを行っている。	落ちついた状況であっても、予防的見地からも季節の変わり目程度に計画の見直しをして欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りの中で情報を共有し、プランを毎日の記録の中にファイルし常に把握・見直しをできるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助等必要に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に公民館長、地域包括支援職員、町会長、市議会議員、市役所職員、利用者家族が参加し関係を強化している。利用者が図書館を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に必ず確認しており、特に緊急時の対応については搬送先の病院を確認している。	入居時に希望するかかりつけ医を選択出来る事を説明している。家族同行が基本になっているが家族の都合により職員が対応している。緊急時には協力医と連絡が取れる体制が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護の利用の他、緊急時は24時間対応して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室との情報交換や定期的に交換して、その都度状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況の変化に応じて説明し、医師・訪問看護師と情報を共有しながら話し合い、方針を確認している。	「重度化した場合の対応に関わる指針」を作成し、入居時に説明している。状況の変化に応じて家族・医療関係者・介護スタッフ等が話し合い、家族の希望に沿った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議で統一した行動をとれるよう話し合いをしたり、研修の中で訓練を再確認できる機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち会いの下避難訓練を定期的に行っている。運営推進会議の中でも地域の方に協力して頂けるよう話し合っている。	年に2回、消防署立会いで利用者と職員が一緒に消火・通報・避難誘導等の総合防災訓練を行っている。災害時の連絡網が作成されている。備蓄として飲料水と食料を2～3日分用意している。	いざという時に慌てずに避難誘導が出来るよう、月に1度程度の自主訓練を検討して欲しい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りを損なわないようにプライバシーを尊重し、さりげないケアを心掛け、言葉かけに注意するよう心掛けている。	人としての尊厳を傷つけないよう、呼称は～さんと呼び、言葉遣いが馴れあいの対応にならないよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	細かな声掛けにより意思確認をしたり、選択できる様提案し、表情を読み取る事で把握している。食べたい物がある時は必ず献立に反映するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れは決まってはいるが、必ず利用者の意見を聴くようにし、希望に添える様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を利用し、服等は家族にお願いし一緒に買ってきて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	決まった献立は作らず、調理片付けができる方には手伝って頂き、食事は利用者と一緒に同じ食事を摂っている。利用者の状態により外食にも出掛けている。	担当者が利用者の希望を聞きながら栄養のバランスを考えて献立を作り、利用者と職員と一緒に食事を楽しんでいる。飲み物は数種類用意してテーブルに並べ、利用者の希望を聞き提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人に一人に合った量やバランスで提供させて頂いている。水分量等も含め、個々に記録してどのくらい摂取出来ているか把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に合ったブラシを用意して口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のパターンを把握し絶えず記録しながら状況の変化に合わせて対応している。基本的には極力オムツをしない方針で行っている。	排泄状況を記録し、個々のパターンに合わせて適時言葉かけをし、トイレでの排泄誘導をしている。排泄介助は基本的に同性が対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩など適度な運動を心掛けたり、出来るだけ食事で改善できるように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低1日おきには入って頂いている。入浴は基本夕方以降に行っており、入る前には必ず声掛けをし意思確認を行っている。	基本的に入浴は午後3時から夕食前までの対応となっており、言葉かけを行い本人の希望に沿っての入浴支援を行っている。	利用者が希望する時に入浴支援が出来る体制作りを検討して欲しい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態により声掛けを行って、本人が希望すればいつでも臥床できる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出来るだけ本人の状態に合った服薬量かを常に考え、日頃の状態を医師に上申している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	犬の世話や洗濯物を干したり、たたんだり畑と一緒に作ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の買い物の手伝いをして頂いたり、散歩に出掛けたり、家族と一緒に外出をして頂いている。個別の日帰り・一泊旅行に行ったりしている。	近隣の散歩・犬との散歩・買物・季節毎の花見・家族との外食・日向ぼっこ・食材の買物に職員と出かける等と外気に触れ、気分転換をする機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある時は買い物時に使える様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある際には、自ら掛けるのが困難な方の場合職員が代わりに行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方に合った椅子やリクライニングチェアを置いたり、空気清浄機やファンを設置して臭い等拡散しない様に配慮している。	ホールにはテーブルや椅子の他、畳のコーナーがあり、利用者にとって落ち付ける場所作りの配慮が見られる。不快な臭いは無く衛生管理も行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になるのは難しいが、思い思いに過ごせる空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には出来るだけ本人が使っていた馴染みのある物を持ってきてくださるようお願いしている。	洋服かけ・家族の写真・寝具・馴染みの小物等を持ち込んでいる。ベッドの使用、畳の上に布団を敷く等、居心地良く過ごせる様工夫して個別の部屋作りをしている。いやな臭いは感じられない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	普通の家で暮らす事で住み慣れた落ち着いた空間を提供できるようにしている。基本的にはバリアフリーにはしていないため利用者が安全に生活できる様配慮している。		